



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

北海道支部

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。

赤十字 ほっかいどう

2022
冬号



最後の戴帽式(伊達赤十字看護専門学校)

令和3年度が最後の新入生の受け入れとなった伊達赤十字看護専門学校で戴帽式が行われました。(6ページ)

CONTENTS

特集:赤十字病院 新型コロナウイルス感染症との闘い	2~4
News・Topics	5~6
わが町の赤十字奉仕団・表彰者名簿	7
インフォメーション	8

赤十字病院 新型コロナウイルス感染症との闘い



旭川市は令和2年から令和3年にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染急拡大の波が襲い、旭川赤十字病院では職員が一丸となってその対応にあたりました。新たな変異株の感染拡大も懸念されるなか、当時の状況や今後の備えなどについて病院職員に伺いました。

—現在[※]、病院はどのような状況でしょうか。 ※令和3年11月時点

(平岡 康子 副院長兼看護部長)

旭川市内では5基幹病院で軽症患者、中等度、重症患者の受け入れを決め対応しています。当院は、昨年8月より、1病棟を新型コロナウイルス感染症中等度患者専用病棟へ切り替え、さらにICU4床を重症患者専用とし、重点医療機関として、400名以上の患者さんを受け入れてきました。また、市内のクラスター支援にJMAT(日本医師会災害医療チーム)における医師や業務調整員を派遣したほか、保健所と連携し、感染管理認定看護師を派遣いたしました。

今後、第6波に備え、昨年からの経験を生かすとともに、地域の連携強化をはかり、感染拡大防止に努めてまいります。

—これまで新型コロナウイルスに感染された患者さんをどのように迎え入れ、対応されたかを教えてください。

(小林 巖 副院長)

旭川市は全国ニュースでも取り上げられるくらい、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるいました。前回の第5波までに市内基幹病院のクラスターや10万人当たり感染者数が全国1位になるほどの急激な感染者数増加なども経験しました。当院は厚生労働省及び道庁からの新型コロナウイルス患者受け入れ要請を受け、当初より一般病棟1病棟を新型コロナウイルス感染者専用病棟とし、集中治療室(ICU)6床中4床も専用床とする体制を整備しました。

～旭川赤十字病院レポート～

旭川市における当院の役割は、軽症～中等症の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れはもちろん、人工呼吸器やECMO(人工肺補助装置)の装着を必要とする重症患者の受け入れにも貢献しております。特に重症患者では、ICU内でのリハビリ介入は非常に重要です。当院では厳重な感染防御を行った上で理学療法士が早期から介入して社会復帰につなげています。



ICU病床での治療

新型コロナウイルスの検査体制は、抗原定量検査とPCR検査の両方を用いた効率のよい検査体制を構築しました。

今では皆さんが知っておられるPCR検査は、精度は高いのですが検査に時間を要するため手術や緊急入院が必要な救急患者の検査には不向きです。その点、抗原定量検査は検査時間も短く、ウイルス感染を発症しているかどうかを鑑別するのに十分な精度を持っています。よって、救急患者ではまず抗原定量検査で陰性を確認し、後日本当にウイルスが体内にいないかをPCR検査で確認することで院内への新型コロナウイルスの持ち込みを厳重に監視しています。



PCR検査機

このほか、新型コロナウイルスワクチン接種は、職員も含め約3万回(1万5,000人相当)の市民へ接種を行いました。さらに市内病院及び介護施設でのクラスター発生時には、旭川市の要請を受けて感染対策チームの派遣も随時行っています。

まだ気を休めることはできない状況が続きますが、日本赤十字社の一員としての「奉仕の精神」を忘れず、地域医療体制を守っていききたいと思います。



ワクチン接種を準備する看護師

一次の感染拡大への備えとして準備していることがあれば教えてください。

(小林 巖 副院長)

今までの感染拡大では、幸運にも透析患者さんのクラスター(集団)発生が無く済んでいます。次も同じようにうまくいくとは限りません。透析患者さんは通常、週3回の血液透析が必要ですが、透析実施施設で新型コロナウイルス感染症の複数陽性者が出た場合、どこで血液透析を続けるかは生死に関わる大問題です。どこの基幹病院でも1名程度の対応は可能ですが複数名となるとお手上げです。

当院では透析患者さんのこのような特性を考え、新型コロナ専用病棟内に一度に4名の血液透析を行える部屋を整備しました。これにより、透析患者さんは新型コロナウイルス感染症の治療を行いながら安心して血液透析を受けることができます。当院では、このように医療弱者を守る取り組みが重要と考えています。

一病院や職員に対する励ましの声や支援の申し出、一方で誹謗や中傷はありましたか。

(藤田 浩二 総務係長)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な物資が不足する中、道内はもとより海外の自治体や企業様からも、大変貴重な物資などのご寄贈をいただき、患者診療のため役立たせていただきました。

また、市民有志の方より「応援してます!旭川赤十字病院」と、日本醤油工業(株)の駐車場に横断幕を掲げていただきました。



市民有志により掲げられた横断幕

同じく、当院に隣接する青雲小学校より「日赤のみなさん がんばってください ありがとう」とメッセージを窓に掲げていただきましたし、市内の小中学生からも励ましのメッセージをいただき、大変心温まりました。

しかしながら一方で、誹謗や中傷があったのも事実です。例えば、「自宅にお寺さんがお参りに来なかった」「美容室の予約を断られた」「知り合いの家に入れてもらえなかった」「エステに申し込もうとしたら、職場とコロナ患者受け入れの有無を聞かれ、申し込みを断られた」などの話を聞いております。



青雲小学校の窓から病院に向けたメッセージ



市内の小中学生から寄せられたメッセージ



一今後の感染拡大防止のために注意して欲しいことを教えてください。

(市川 ゆかり 感染管理室副室長)

新型コロナウイルスワクチンの接種が始まった時には、ワクチン接種が進んだ先にはマスクを外した生活が待っているような期待感がありました。しかし、デルタ株の出現や感染対策を全くしないで生活することで、諸外国では感染の再爆発が起きています。新型コロナウイルスの感染をゼロにすることはできませんが、感染対策を上手に取り入れて生活することが、今求められています。

新型コロナウイルス感染症の1例目が報告されてから、もうすぐ2年が過ぎようとしています。その間に、ワクチンや治療薬が開発され、対応は着実に進歩しています。

しかし、感染対策は「マスクの着用」、「換気」、「手指衛生」と、変更はありませんが、換気については今まで以上に気を付けたい対策です。冬期間になり室内で過ごす時間が増えます。外気温が下がっているのに、窓を開けて換気をすることが容易にできません。したがって、換気が悪く、人が多く集まる場所では、マスクを忘れず隙間なく正しく着けましょう。また、そのような場所に長く滞在することは避けましょう。

新型コロナウイルスワクチン接種への協力

北海道社会事業協会×赤十字

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、全国でワクチン接種が進んでいます。

北海道支部では10月から11月にかけて、道内で病院や保育所を運営する社会福祉法人北海道社会事業協会が実施する新型コロナウイルスワクチン接種に会場提供や周知などで協力しました。

10月4日の実施初日は入念なシミュレーションの後に事前予約した方々を受け入れ、スムーズに接種が行われました。

期間中は大きなトラブルもなく、延べ2,205名の方に接種が行われました。

これからも新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止することに貢献できるよう活動を続けてまいります。



多くの市民が訪れた接種会場



都心部で接種できる「都心ワクチン」としてPR

感染予防策を講じた出前講座・奉仕団研修会の実施

出前講座

9月24日、北海道支部として初めて学校とオンラインで結んだ出前講座を実施しました。

根室市立北斗小学校5年生50名を対象に、「命を守るために」をテーマとして実際の避難所の写真を見てどのような環境であるか考える講義のほか、段ボールベッドを組み立てる体験を通じて防災について学習しました。



段ボールベッドの組み立て



座り心地も良いです

奉仕団基礎研修

10月23日、赤十字ボランティアとして活動するための知識と理解を深めることを目的とした「赤十字奉仕団基礎研修会」を白老町で実施しました。

白老町赤十字奉仕団員17名の参加のもと、白老町の防災マップ作りを通して地域の特徴や危険箇所を再確認し防災・減災意識を高めたほか、全国の事例を交えながら奉仕団の役割や活動についての講義もあり、改めて奉仕団活動について考える機会となりました。

今回の研修は、団員同士のグループワークを通じて行っているプログラムを個人で実施するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底のうえ実施しました。

受講者からは「他の奉仕団の活動状況を話してもらい参考になった」「学んだことを今後の活動に活かしたい」等の感想があり、さらなる奉仕団活動の充実が期待される研修となりました。



奉仕団指導講師による講義



参加された白老町赤十字奉仕団の皆さん

赤十字大会の準備に協力した園児たちに感謝

9月30日に名誉副総裁高円宮妃殿下をお迎えし、北見市で開催を予定していた第33回北海道赤十字大会。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言が同日まで延長されたことを受けて中止となりました。

予定では、大会翌日に青少年赤十字に加盟する認定こども園北見くるみ幼稚園を妃殿下にご視察いただくこととしており、園児たちはこの日に向け、誓いのことばやお遊戯の練習に励んでいました。

今回、残念ながら練習の成果を披露することはできませんでしたが、その頑張りに感謝を伝えるとともに、北海道支部からお礼の記念品を贈らせていただきました。

北見くるみ幼稚園の皆さん、本当にありがとうございました。



園児にお礼の記念品を手渡す
北海道支部渡辺事務局長

釧路さかえ保育園 新園舎が完成

老朽化のため、令和2年9月から全面改築工事を行っていた釧路さかえ保育園の新園舎が完成し、9月21日からリニューアルスタートしました。

1階中央に配置した吹き抜けのホールは天井が高く、木材を目立たせることで温かみを感じさせる作りとなっています。また、遊戯スペースや入園式などの行事にも活用できるようにステージも備えました。

木のぬくもりが感じられる新しい園舎で、これからも心身ともに健やかに成長できるよう園児たちをサポートしてまいります。



(撮影:KEN五島)



(撮影:KEN五島)

看護専門学校で戴帽式

4月に伊達、浦河の両赤十字看護専門学校に入学した新入生が、10月22日(浦河)、11月5日(伊達)、晴れて戴帽式を迎えました。

戴帽式は基礎実習を終えた1年生が、これから本格的な病院実習を迎えるにあたり、看護師としての一步を踏み出すためにナースキャップを受け取る節目の行事です。

浦河では14名、伊達では3名の1年生が式に臨みました。伊達赤十字看護専門学校は令和3年度が最後の新入生の受け入れとなったため、今回が最後の戴帽式となりました。

ナースキャップを受け取った学生は、看護師という職業の役割と責任の重さを感じるとともに、自らの夢の実現に向けて病院で臨床実習に励むこととなります。



ろうそくに灯をともし学生(伊達赤十字看護専門学校)

赤十字
奉仕団

地域に根差したさまざまな

活動を行う北海道の赤十字奉仕団。

その中からいくつかの奉仕団の

取組みを毎号紹介しています。

八雲町赤十字奉仕団

八雲町赤十字奉仕団は、昭和26(1951)年10月26日に結団し、令和3年度に創立70周年を迎えました。団員数は38名で活動しております。

主な活動として町内の清掃活動、障がい者や高齢者への支援、交流活動をしています。

例年5月に行うお花見会では、普段外出が少ないひとり暮らしの高齢者や障がい者の方をお招きし、他の方々との交流の機会を増やし楽しんでいただければと、奉仕団員が手作りした料理を食べていただいたり、唄や踊り、レクリエーションを



お花見会の様子

皆さんが笑顔になっていただけることにやりがいを感じています



施設訪問の様子

唄や踊りを見て楽しんでいただけたと思っています

実施しています。

また、唄や踊りを披露し楽しんでもらうことを目的に、町民が入所する老人ホーム等の施設に訪問する活動を行っています。

八雲町赤十字奉仕団は町内の方々の笑顔や、「ありがとう」という言葉にやりがいを感じ、奉仕団員ひとり一人が自覚を持ち、楽しみながら活動をしています。

今後も、八雲町赤十字奉仕団は高齢者、障がい者の支援、また町民の皆様が気持ちよく住めるような街づくりへの協力を続けていきたいと思っています。

委員長 小泉 笑子

たくさんのご協力ありがとうございました

活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します(敬称略) (令和3年7月～10月表彰伝達分)

金色有功章

札幌市 青木 京子
札幌市 齊藤 一己
函館市 一戸 春光
函館市 川崎 和子
美唄市 株式会社但野三興

銀色有功章

札幌市 渡部 和夫
札幌市 三上 健太
札幌市 細川 忍
札幌市 姫井 日覚
札幌市 千葉 真史
札幌市 堂本 秋次
札幌市 宗教法人白石神社

札幌市 札幌市赤十字奉仕団西分団
函館市 管藤 勇氣
美唄市 山上 登代子
三笠市 三笠電機工業株式会社
支部 合同会社北海道
マーケティングフィルム

社長感謝状

函館市 角谷 隆一
釧路市 宮脇土建株式会社 宮友会

支部 中村 裕貴
支部 医療法人社団慈昂会

ACTION!防災・減災 一命のために今うごくー

災害は、突然やってきます。しかし、その備えを行っている人の割合は約50%。^{*}つまり、2人に1人は、備えもないまま災害を迎えてしまいます。

日本赤十字社は皆様とともに災害に備えるための活動「ACTION!防災・減災」をはじめています。災害時、あなたを一番守るのは今のあなたの行動です。

この機会に特設サイトをチェックして、災害への備えに取り組んでみませんか。

※出典：東日本大震災に関する調査（2020年 日本赤十字社）



ACTION! 防災・減災

検索

「はたちの献血」キャンペーン

献血者が減少しがちな冬期に安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心に、広く献血に関する理解と協力を求める「はたちの献血」キャンペーンを2月28日まで実施しています。（主催：厚生労働省・都道府県・日本赤十字社）

新型コロナウイルス感染症の影響により、道内では献血ご協力者が減少していますが、献血会場では徹底した感染予防策をとっており、安全な運営に取り組んでおります。献血へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

献血会場・ご予約は

北海道 献血

検索

または右を読取

（北海道赤十字血液センターホームページ）



献血推進キャラクター
けんけつちゃん



日本赤十字社北海道支部は胆振東部地震など近年頻発している自然災害や新型コロナウイルス感染症への対応など、北海道をはじめ国内外で130年以上にわたり人道支援活動を行っています

日本赤十字社北海道支部への遺贈・相続財産寄付にご理解ください
ご希望の方にはパンフレットをお送りします

お問い合わせ 遺贈・相続財産寄付担当 011-231-7126（平日9:00～17:30）

発行元



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

札幌市中央区北1条西5丁目
TEL:011-231-7126

発行日

令和4年1月18日

公式 facebook・Instagram で情報発信中!



日赤北海道



<https://www.jrc.or.jp/chapter/hokkaido/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に
基づき、より多くの人に見やすく読みま
ちがえにくいデザインの文字を採用して
います。